

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(平成29年度)

【評価凡例】 A:目標を上回った B:目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかった

将来像1 食を通じて「人」がつながり活気あふれる元気なまち(施策1,2,3) 事業数: 30

施策1 食への理解の促進 事業数: 15

ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成29年度			平成30年度	開始/終了年度 (計画期間内)
				平成29年度	平成30年度		目標	実績	評価	目標	
1	食と花の推進課	料理教室「シェフの日」	生産者・料理人・消費者が交流し、食材のおいしさ等を分かち合い、食への理解を深めることを目的に、市内の飲食店が市内の生産者が作った食材を使用して実施する料理教室を開催します。	生産者のほ場見学・農業体験と飲食店での料理教室を組み合わせ実施	→	実施店舗数	20店舗	10店舗	C	10店舗	
2	食と花の推進課	農家の日	生産者・料理人・消費者が交流し、食材のおいしさ等を分かち合い、食への理解を深めることを目的に、生産者のもとを訪れ、地域の暮らしと農業、食文化を学ぶ、料理教室を含んだツアーを開催します。	個人生産者と連携して実施	法人・団体等と連携して実施	ツアー企画・催行数	6ツアー	6ツアー	B	3ツアー	H29開始
3	食と花の推進課	若手料理人の育成支援	本市の食のレベルアップを図るため、料理人の技術発表の場や本市の食文化を理解し、生産者と交流する機会を創出するなど若手料理人の育成を支援します。	検討・準備	1.若手料理人コンテストの実施 2.研修支援補助金制度の実施	1.コンテスト参加者数 2.補助金交付申請件数	支援制度設計の完了	支援制度設計の完了	B	1.30名 2.3件	
4	学校支援課、食と花の推進課	新潟発わくわく教育ファーム推進事業『『アグリ・スタディ・プログラム』の推進』	本市の誇る農業や食に対する理解を深め、ふるさとへの愛情や誇り、生きる力を培うとともに、農業を活性化するため、学習と農業体験を結び付けた体験プログラムを実施します。	内容の充実、市内全小学校における実施	→	1.「アグリ・スタディ・プログラム」に基づく学習を実施している学校の割合 2.アグリ・スタディ・プログラム評価・サポート委員会によるプログラムの検証率	1 100% 2 75%	1 100% 2 75%	B	1 100% 2 75%	
5	農村整備・水産課	浜で遊ぼうin角田・南浜、大河の感謝祭in信濃川	地元水産物の紹介と魚食普及のため、地引網体験・漁船乗船体験などを開催します。また、信濃川で捕れるサケなどを通じて川の恵みに感謝するため、サケのつかみどり・採卵実演などを実施します。	・新たな担い手の確保 ・地元水産物の魅力の向上 ・地元水産物の魚価の向上	→	参加者数	浜で遊ぼうin角田中止 浜で遊ぼうin南浜2500人 大河の感謝祭350人	浜で遊ぼうin南浜3000人 大河の感謝祭250人 (荒天により来場者減)	C	浜で遊ぼうin角田廃止 浜で遊ぼうin南浜2500人 大河の感謝祭350人	
6	食と花の推進課	地産地消推進事業	地場産食材を積極的に販売・活用し、PRする小売店・飲食店などを支援するため「地産地消推進の店」を認定します。また、地場産食材の良さを知ってもらい「地産地消推進の店」の利用促進を図るキャンペーンを実施します。	・地産地消推進の店の募集 ・地産地消キャンペーンの実施 ・株ぐるなびと連携し、認定飲食店でのイベントを実施(「シェフの日」「食材フェア」など)	→	地産地消推進の店新規認定数(店)	15件	34件	A	15件	
7	食と花の推進課	料理教室等	本市で生産される米や食材を活かした日本型食生活を柱とする「にいがた流 食生活」を推進するため、季節の料理教室を実施します。	・内容の充実	→	拠点施設における食育の実施を促す事業の実施回数	200回	191回	C	(指定管理者による運営に移行)	
8	食と花の推進課	食育マスター制度	地域での食育活動を広げるため、食育に関する優れた知識、技術、技能及び経験を有する人材を「新潟市食育マスター」として登録し、学校・市民団体などの要請に応じて、食育活動の指導者として派遣します。	・食育マスターの登録促進と効果的な派遣の継続	→	食育マスター派遣回数	200回	217回	A	180回	
9	西区農政商工課	食と農の学校(親子農業体験教室)	小学生の親子を対象に新潟大学と連携して、農業体験や調理実習、農作物や食育に関する講座を開催し、農業と食への関心を高め、食育を推進する。	夏休み親子農業体験教室の廃止	→	親子農業体験教室への参加組数	全5回開催	全5回実施	B	15組参加	
10	西区農政商工課	食と農の学校(入門コース)	一般社会人などを対象に、生産者の圃場での農業体験教室を通じて、農業に携わるきっかけをつくる。 ・入門コース(全6回)	事業の見直し・拡充を検討(特産コースの廃止、入門コースの実施回数増)	見直し後の事業実施	農業体験教室の実施回数	全14回開催	全14回実施	B	全6回実施	
11	西区農政商工課	いもジェンヌの生産拡大及び商品開発に関する支援	西区内の砂丘地で生産されるさつまいも「いもジェンヌ」の需要増大への対応やブランド化を目的に、生産拡大や商品開発の支援などをいもジェンヌ農工商連携協議会を中心に推進します。	・作付面積拡大支援 ・商品開発支援 ・販路拡大支援 ・消費拡大支援 ・生産地域の活性化	・生産拡大に係る支援 ・商品開発支援 ・販路拡大支援 ・消費拡大支援 ・生産地域の活性化	いもジェンヌペースト取扱件数及び重量	27件、4.0t	34件、3.0t	B	作付面積23.0ha	
12	西区農政商工課	西区の野菜まるかじり講座	子供たちへの食育と地場産農産物の消費拡大を推進するため、区内の希望小学校が収穫体験、料理教室、生産者講話の3つのメニューから希望講座を選択し、授業を実施してもらう。	・希望校で講座を実施	→	実施希望全校での実施	実施希望全校での実施	延べ26校で実施	B	実施希望全校での実施	H29開始
13	文化創造推進課	水と土の文化創造都市 子どもプロジェクト2017	次代を担う子どもたちの創造性を育むこどもプロジェクトを実施する。アートや食、音楽などの様々な視点によるワークショップを開催する。	こどもプロジェクトの中で料理教室を実施 1回	水と土の芸術祭にて実施するため休止	実施件数	5件	5件	B		H30休止
14	文化創造推進課	水と土の芸術祭2018	新潟の豊かな暮らし文化の磨き上げと発信により、本市の存在感を高めるとともに、水と土の文化創造都市を前進させるため、新潟開港150周年記念事業の主要事業として「水と土の芸術祭2018」を開催する。		水と土の芸術祭2018開催	参加者数				777,000人	H30開始
15	鳥屋野地区公民館	新潟いいね！～ニイガタ美味しいものぞんまい～	転勤、転入者を対象に、人とのつながりを作ってもらうことを目的として、新潟市の代表的な「食」をテーマに、地域の方から作り方を教えてもらったり、見学したり、体験したりしながら、新潟市のことを紹介する講座として開催する。		全3回 ・笹団子づくり・見どころ紹介 ・みそ蔵・酒蔵を訪ねて ・枝豆収穫体験笹団子づくり・見どころ紹介	参加申込組数				21千円	H30開始

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(平成29年度)

【評価凡例】 A:目標を上回った B:目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかった

施 策2 食を生かした健康づくり 事業数: 6

ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成29年度			平成30年度	開始/終了年度
				平成29年度	平成30年度		目標	実績	評価	目標	
16	保健所健康増進課	食生活改善推進委員養成講座・研修会	生涯における健康づくり活動を、食を通じて地域で推進している食の健康ボランティアである「食生活改善推進委員」を養成・育成するため、養成講座および研修会を実施します。	・市内3区で養成講座を実施 ・年2回時機に応じたテーマによる研修会の実施	→	食育の推進に関わるボランティアの数	470人	476人	A	480人	
17	保健所健康増進課	元ホテル総料理長から学ぶ減塩料理 食べて感じて健康メニュー	塩分を控えた健康的な料理メニューを生活に取り入れ、生活習慣病を一次予防することを目的に、新潟市調理師会の協力のもと、プロの料理人から教わる減塩料理教室を開催します。	・調理師会との連携により、時機に応じた内容で実施	→	参加人数	35人	34人	C		H30統合
18	保健所健康増進課	食環境整備事業(健康づくり支援店普及事業、市内産の農産物を活用した減塩運動)	バランスのとれた食事を体験できる場を増やすため、栄養成分表示などに取り組む飲食店を「健康づくり支援店」に指定し、その周知を図ります。また、農家レストランなどに、減塩・野菜たっぷりメニューの採用を促します。	・支援店数増加の働きかけ ・既存店フォローの実施 ・減塩に取り組む飲食店の増加	→	・食生活の面から市民の健康づくりを支援する店の数 ・減塩を意識しているし、できていると思う者の割合 ・野菜の摂取を意識しているし、できていると思う者の割合	・490店舗 ・20.2% ・20.2%	・488店舗 ・12.2% ・11.1%	C		H30統合
19	ニューフードバレー特区課	新潟市健康づくり応援食品認定制度(新潟市健康づくり応援食品認定事業)	市民の健康維持・増進および市内食品のブランド化、高付加価値化の実現を図るため、機能性に関する科学的な報告がある成分を含む食品や、健康づくりに配慮されている食品に対し、市独自の認定を付与します。	・申請食品の審査認定 ・制度、認定食品のPR	→	機能性食品認定件数	6件	4件	C	2件	
20	農業活性化研究センター	農産物高付加価値化推進事業	農業者の所得向上や農業振興を目的に、付加価値の高い商品開発を進めるため、農産物に含まれる様々な機能性成分や有用形質に着目し、科学的根拠を裏付けとした調査研究を行います。	○柿葉プロジェクトの実施 ○農産物高付加価値化プロジェクトの実施 ○大麦プロジェクト支援	→	地元産品の成分分析・調査、製品化支援	6件	6件	B	6件	
21	保健所健康増進課	ちよいしおプロジェクト	減塩と野菜摂取の普及・啓発の実施。市民、関係機関への周知、学校における減塩教育、飲食店・販売店と連携した取り組みを実施。		→	減塩を意識しているし、できていると思う者の割合				20.20%	H30開始

施 策3 食文化の次世代への継承 事業数: 9

ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成29年度			平成30年度	開始/終了年度
				平成29年度	平成30年度		目標	実績	評価	目標	
22	食と花の推進課	地場産学校給食推進事業	学校給食における地場農産物の利用拡大とともに食育の推進を図るため、米飯給食において地場産の環境保全型栽培コンヒカリ100%を供給し経費の一部を助成します。また、地域の実情に応じたモデル事業を実施します。	・市内産での米飯給食の維持に向けた助成 ・地場農産物を積極的に取り入れる取組	→	学校給食における地場農産物(野菜・果物・きのこ)の利用割合	27.5%	26.7%	C	28.0%	
23	食と花の推進課	レシピ集の活用	郷土料理や行事食を含む新潟の家庭料理を次の世代へ伝えるため、料理教室で使用したレシピを抜粋し、まとめた「伝えたいにいがたの味」などのレシピ集を活用します。	・効果的な利用	→	レシピを活用した取り組み	10回	11回	A	10回	
24	農業活性化研究センター	農業活性化研究センターにおける研究(伝統野菜の維持・保存)	生産現場における栽培技術上の課題解決に向け、野菜・花き・果樹の栽培実証試験などを実施し、その中でナスやカブなどの伝統野菜の維持・保存を行うとともに、活用に向けた調査・研究を進めます。	ナスなどの伝統野菜の維持・保存	→	大学等との共同研究数	4件	4件	B	5件	
25	文化創造推進課	潟の魅力創造 市民活動補助金	潟の自然環境や歴史、暮らし文化などの魅力の調査・研究、発信、育成、伝承に資する市民活動を支援します。	・補助金要綱の見直しを検討 ※数値目標:採択件数 10件(H28年度)	→	採択件数	10件	10件	B		H30休止
26	食と花の推進課	料理教室等【再掲】	本市で生産される米や食材を活かした日本型食生活を柱とする「にいがた流 食生活」を推進するため、季節の料理教室を実施します。	・内容の充実	→	拠点施設における食育の実施を促す事業の実施回数	200回	191回	C	(指定管理者による運営に移行)	
27	西区農政商工課	食と農の学校(親子農業体験教室)【再掲】	一般社会人などを対象に、生産者の圃場での農業体験教室を通じて、農業に携わるきっかけをつくる。 ・入門コース(全6回)	事業の見直し・拡充を検討(特産コースの廃止、入門コースの実施回数増)	→	農業体験教室の実施回数	全14回開催	全14回実施	B	全6回実施	
28	西区農政商工課	いもジェンヌの生産拡大及び商品開発に関する支援【再掲】	西区内の砂丘地で生産されるさつまいも「いもジェンヌ」の需要増大への対応やブランド化を目的に、生産拡大や商品開発の支援などをいもジェンヌ農商工連携協議会を中心に推進します。	・作付面積拡大支援 ・商品開発支援 ・販路拡大支援 ・消費拡大支援 ・生産地域の活性化	→	いもジェンヌペースト取扱件数及び量	27件, 4.0t	34件, 3.0t	B	作付面積23.0ha	
29	西区農政商工課	西区の野菜まるかじり講座【再掲】	子供たちへの食育と地場産農産物の消費拡大を推進するため、区内の希望小学校が収穫体験、料理教室、生産者講話の3つのメニューから希望講座を選択し、授業を実施してもらう。	・希望校で講座を実施	→	実施希望全校での実施	実施希望全校での実施	延べ26校で実施	B	実施希望全校での実施	H29開始
30	文化創造推進課	水と土の文化創造都市 子どもプロジェクト2017【再掲】	次代を担う子どもたちの創造性を育む子どもプロジェクトを実施する。アートや食、音楽などの様々な視点によるワークショップを開催する。	子どもプロジェクトの中で料理教室を実施 1回	→	実施件数	5件	5件	B		H30休止

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(平成29年度)

【評価凡例】 A:目標を上回った B:目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかった

将来像2 食を通じて「地域」がつながり新たな交流を生み出すまち(施策4,5,6,7) 事業数: 29

施策4 地域の魅力の向上 事業数: 13

ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成29年度			平成30年度 目標	開始/終了年度
				平成29年度	平成30年度		目標	実績	評価		
31	北区産業振興課	キテ・ミテ・キタクとまとキャンペーン	北区の豊栄地区で生産されている「豊栄トマト(品種:桃太郎)」と濁川地区で生産されている「濁川トマト(品種:麗容)」の消費拡大を目的に、ラジオやホームページを活用したPR活動を行います。	ラジオやホームページなどを活用したPR。より効果的なPR方法の検討	見直し・拡充	広報媒体での放送・掲載回数	ラジオ広報6回、ホームページの作成ページ数6ページ、北区役所だより掲載1回、北区facebook掲載1回	ラジオ広報6回、ホームページの作成ページ数6ページ、北区役所だより掲載1回、北区facebook掲載1回	B	リーフレットの作成、ラジオ広報6回	
32	中央区地域課	発酵食産業PR事業	伝統産業の継承と地域の魅力向上を図るため、中央区で古くから発展してきた酒、みそ、しょう油などの伝統的な発酵食産業の特徴や歴史を、体験教室などを通して広くPRします。	・料理教室や体験教室の開催 ・発酵食品PR冊子の作成 ・次年度以降の新事業展開を検討	・見直しによる新たな事業(地域と連携した事業)の実施	・料理教室や体験教室の開催 ・発酵食品PR冊子の作成 ・次年度以降の新事業展開を検討	料理教室:2回開催 体験教室:2回開催	料理教室:1回開催 体験教室:2回開催	C	体験教室:2回開催	
33	秋葉区産業振興課	満願寺稲架木並木を活用した観光交流事業	交流人口の拡大および観光資源としての景観をつくるため、本市の指定文化財である秋葉区満願寺稲架木並木を舞台に、春には手植えによる田植え体験、秋には手刈りによる稲刈りおよび稲架掛け体験イベントを開催します。	・田植え体験イベントの開催 ・稲刈り、はさかけイベントの開催 ・稲刈り、はさかけイベントに合わせた体験ツアーの実施	・田植え体験イベントの開催 ・稲刈り、はさかけイベントの開催 ・稲刈り、はさかけイベントに合わせた体験ツアーの実施 ・事業の見直し・拡充を検討	稲刈り、はさかけイベント参加者数	240名	194名	B	240名	
34	文化創造推進課	水と土の文化創造都市市民プロジェクト	新潟らしさを表す「潟」、「食」、「踊り」などの魅力を発信するものや「水と土」に関わるアートを活用して地域の賑わいを創出するイベントなどの市民プロジェクトを支援します。また、水と土の芸術祭において本市の「食」の魅力も発信します。	・補助金の運用	水と土の芸術祭にて実施するため休止	採択件数	20件以上	20件	B		H30休止
35	文化創造推進課	潟の魅力創造市民活動補助金【再掲】	潟の自然環境や歴史、暮らし文化などの魅力の調査・研究、発信、育成、伝承に資する市民活動を支援します。	・補助金要綱の見直しを検討 ※数値目標:採択件数 10件(H28年度)	新潟開港150周年記念事業に要素を集約することから、一旦休止	採択件数	10件	10件	B		H30休止
36	水産林務課	浜で遊ぼうin角田・南浜、大河の感謝祭in信濃川【再掲】	地元水産物の紹介と魚食普及のため、地引網体験・漁船乗船体験などを開催します。また、信濃川で捕れるサケなどを通じて川の恵みに感謝するため、サケのつかみどり・採卵実演などを実施します。	・新たな担い手の確保 ・地元水産物の魅力の向上 ・地元水産物の魚価の向上	→	参加者数	浜で遊ぼうin角田中止 浜で遊ぼうin南浜2500人 大河の感謝祭350人	浜で遊ぼうin南浜3000人 大河の感謝祭250人 (荒天により来場者減)	C	浜で遊ぼうin角田廃止 浜で遊ぼうin南浜2500人 大河の感謝祭350人	
37	ニューフードパラー特区課	農家レストランの設置	国家戦略特区の規制緩和を活用し、農用地区域に農家レストランを設置	・開設済みの農家レストランに対するフォローアップ ・新規開設者の掘り起し ・市内外に向けた農家レストランPR	→	農家レストラン設置数(累計)	4店舗	3店舗	C	4店舗	
38	食と花の推進課	農業体験観光ツアー	農村と都市が近接する新潟市の特性を生かし、農業体験・食・観光を組み合わせたツアーを開催し、主に首都圏からの交流人口の拡大を目指すとともに、生産現場での生産者との交流を通じ、生産者と消費者の相互の理解促進、農業・農村の活性化を図る。	農業・食体験など受入先の開拓・整備	→	参加者数	80人	9人	C	30人	
39	北区産業振興課	収穫体験農園	北区で生産される農産物の収穫体験を通じ、生産者と消費者の交流が生まれることで、北区の農業の活性化と地域に根差した食育の推進を図ることを目的とする。	・受け入れ農家の負担軽減策及び謝礼等予算化の検討	→	申込者数	定員を上回る(トマト:15組、枝豆:20組)	定員を上回った(トマト:64組、枝豆32組)	A	定員を上回る(トマト:50人、枝豆:50人)	
40	西区農政商工課	農業まつり	西区の特産品である「新潟すいか」「大根」等の収穫期にあわせ農業まつりを開催し、地場産農産物の周知と消費拡大を図る。	・すいかまつり 7/月上旬 ・茶豆まつり 8/中旬 ・新米・大根・ねぎの収穫祭 10/月上旬	→	すいかまつり、新米・大根・ねぎの収穫祭の来場者数	すいかまつり 7,000人 新米・大根・ねぎ収穫祭 4,500人	10,000人	C	11,500人	
41	西区農政商工課	いもジェンヌの生産拡大及び商品開発に関する支援【再掲】	西区内の砂丘地で生産されるさつまいも「いもジェンヌ」の需要増大への対応やブランド化を目的に、生産拡大や商品開発の支援などをいもジェンヌ農工商連携協議会を中心に推進します。	・作付面積拡大支援 ・商品開発支援 ・販路拡大支援 ・消費拡大支援 ・生産地域の活性化	・生産拡大に係る支援 ・商品開発支援 ・販路拡大支援 ・消費拡大支援 ・生産地域の活性化	いもジェンヌペースト取扱件数及び重量	27件, 4.0t	34件, 3.0t	B	作付面積23.0ha	
42	食と花の推進課	新潟の食と花のPR事業	ねぎをテーマに全国の産地が一堂に会しPRを行う、全国ねぎサミット2018 inにいがたの開催や、地産地消推進店の認定、新潟市食と花の銘産品を中心とした本市の魅力ある農産物の魅力を発信を通じて、重点的な園芸品目の消費を喚起することで、持続的な農業経営基盤の強化を図ることを目的とする。		○全国ねぎサミット2018 inにいがたの開催(平成30年11月3日～4日) ○地産地消推進店の認定・周知 ○SNSを活用した市産農産物の情報発信	食と花のPR情報発信項目数(市報、プレスリリース、SNSを用いた発信)				50件	H30開始
2	文化創造推進課	水と土の芸術祭2018【再掲】	新潟の豊かな暮らし文化の磨き上げと発信により、本市の存在感を高めるとともに、水と土の文化創造都市を前進させるため、新潟開港150周年記念事業の主要事業として「水と土の芸術祭2018」を開催する。		水と土の芸術祭2018開催	参加者数				777,000人	H30開始

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(平成29年度)

【評価凡例】 A:目標を上回った B:目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかった

施 策5 ガストロノミーツーリズムの構築 事業数: 5

ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成29年度			平成30年度	開始/終了年度
				平成29年度	平成30年度		目標	実績	評価	目標	
42	食と花の推進課	レストランパスなどを活用したコンテンツ開発	レストランパスを活用し、美しい自然、歴史的景観、伝統芸能などの地域資源と農業体験、酒蔵見学などのさまざまな体験メニューを組み合わせ、本市の食文化を一体的に体験できる新しい観光コンテンツを開発します。	モデルコースの作成	複合的なツーリズムの開発	レストランパス延べ乗車人数	1,100人	1,181人	A	774人	
43	観光政策課	魅力発信・誘客推進事業(着地型観光の充実)	本市への誘客につなげるため、本市の食、酒、農業、みなどまち文化等の本市の個性を生かした着地型旅行商品の企画・造成を支援します。	着地型旅行商品の企画・造成支援	→	延べ宿泊者数	2211千人泊	2193千人泊	C	2,233千人泊	
44	観光政策課	観光客おもてなし態勢促進事業	本市への誘客につなげるため、観光客が快適に滞在・行動できるおもてなし態勢を整備します。	マーケティング調査、観光人材育成、受入態勢整備	→	延べ宿泊者数	2211千人泊	2193千人泊	C	2,233千人泊	
45	観光政策課	魅力発信・誘客推進事業(観光コンテンツ、旅行商品等の情報発信)	食と旅行を嗜好するターゲットに向け、ガストロノミーツーリズムなど新潟の個性を生かした観光コンテンツや地理的優位性を効果的に情報発信し、誘客を促進します。	観光コンテンツ・旅行商品の情報発信	→	延べ宿泊者数	2211千人泊	2193千人泊	C	2,233千人泊	
46	ニューフードバレー特区課	米と酒を中心としたプロモーション事業	本市の食文化のPRを通じ、本市への誘客を図るとともに、市産農産物の国内外での新規需要を創出するため、米と酒を中心とした市産農産物・食文化のプロモーション映像作成やイベント開催によるプロモーションを展開します。	国内外向けプロモーションツール作成	プロモーションツールとメディアの活用	新潟市産食材輸出促進アプローチ件数<H30年度~>新潟市産食材販路拡大アプローチ件数(件)	15件	16件	A	48件	

施 策6 他都市への発信と都市間連携 事業数: 5

ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成29年度			平成30年度	開始/終了年度
				平成29年度	平成30年度		目標	実績	評価	目標	
47	観光政策課	特産品・土産品の振興	市産品などを全国で紹介・宣伝し、販路の拡大を図るとともに、誘客につなげるため、新潟市名産会などと連携し、全国の百貨店等で「観光と物産展」を開催し、本市の観光や食の魅力を発信します。	・全国の百貨店等で「観光と物産展」開催 ・開催会場の維持・拡大に向けた催事内容の充実とセールス活動	→	観光入込客数	20969千人	18,613千人泊	C	21,598千人	
48	西区農政商工課	特産品情報の発信	さつまいも、すいかなど本市の特産農産物や加工品の消費拡大およびブランド化の推進を図るため、表参道・新潟館ネスパサや首都圏の百貨店などでのPR活動や、首都圏からの交流ツアーを実施します。	首都圏等で情報発信・PR	→	首都圏等向け活動実施回数	18回	31回	A	18回	
49	ニューフードバレー特区課	農産物販路拡大支援事業	農産物販路拡大アドバイザーを活用し、販路拡大を支援するほか、販路拡大に意欲的な生産者の発掘・育成を目的に、セミナーを開催します。また、さらなる販路拡大のため、産地間連携出荷の拡大や大都市での販促活動を実施します。	・販路拡大アドバイザーとの連携 ・県や関係者と連携した大都市でのPR	・販路拡大アドバイザーとの連携 ・県や関係者と連携した大都市でのPR ・近隣市町村と連携したPR	農産物販路拡大支援団体数<H30年度~>新潟市産食材販路拡大アプローチ件数(件)	48件	48件	B	48件	
50	食と花の推進課	食と花の銘産品事業	本市が市内外に誇る自慢の農畜水産物の認知度向上と消費拡大を図るため、「新潟市食と花の銘産品」として指定し、市内外へ広くPRするとともに、生産者が実施する販促活動に対して補助金などによる支援を実施します。	食と花の銘産品活動に対する支援	平成29年度をもって廃止	農産物プロモーション件数(海外含む)	68(昨年度実績+1)	53	C		H29廃止
51	文化創造推進課	水と土の芸術祭2018【再掲】	新潟の豊かな暮らし文化の磨き上げと発信により、本市の存在感を高めるとともに、水と土の文化創造都市を前進させるため、新潟開港150周年記念事業の主要事業として「水と土の芸術祭2018」を開催する。	水と土の芸術祭2018開催		参加者数				777,000人	H30開始

施 策7 国際交流の促進 事業数: 6

ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成29年度			平成30年度	開始/終了年度
				平成29年度	平成30年度		目標	実績	評価	目標	
52	国際課	新潟の食輸出商談会	市産農産物および加工食品の輸出促進を目的に、企業や農業者などを対象に海外食品バイヤーとの商談会を国内外で開催します。	・市場の選定も含め、企業ニーズに即した商談会事業を継続 ・海外ビジネスに取り組む企業の裾野拡大	→	商談会参加企業	28社	73社	A	71社	
53	国際課	海外消費者テストマーケティング	海外の消費者に好まれる食品や外食サービスなどの開発支援などを目的に、市内在住の外国籍市民をモニターとするテストマーケティング調査を実施します。	・広報宣伝の強化 ・海外消費モニターの登録制の推進	・広報宣伝の強化 ・利用企業の裾野拡大 ・海外消費モニターの登録制の推進	参加企業	6社	8社	A	10社	
54	ニューフードバレー特区課	農産物輸出促進事業	小口流通システムの構築とインバウンドの拡大を図るため、海外市場の新規販路開拓や既存販路における販促活動などを実施することで、市産農産物の輸出促進を図ります。	・流通体制整備 ・物流検証、PR ・米輸出セミナー	→	<H29年度~>新潟市産食材輸出促進アプローチ件数<H30年度~>新潟市産食材販路拡大アプローチ件数(件)	15件	16件	A	48件	
55	ニューフードバレー特区課	食の国際見本市「フードメッセinにいがた」	「世界に貢献できる都市ブランドの構築を図る」ことを目的に、本市の拠点性を高めていくために、本州日本海側最大の食の国際見本市「フードメッセinにいがた」を開催し、食関連事業者に対して商談の場を提供します。	・フードメッセinにいがた2017 ※数値目標:来場者数8,800人	・フードメッセinにいがた2018 ※数値目標:来場者数9,100人	フードメッセ来場者数	来場者数:9,500人	来場者:10,033人	A	来場者:10,300人	
56	ニューフードバレー特区課	食の国際シンポジウム「フードフォーカスinにいがた」	「世界に貢献できる都市ブランドの構築を図る」ことを目的に、グローバルな視点で食の課題について議論する食の国際シンポジウム「フードフォーカスinにいがた」を「食と健康フォーラム」と隔年で交互に開催します。	・食と健康フォーラム	→	フードフォーカスinにいがたの開催	食と健康フォーラム開催	食と健康フォーラム開催	B	食と健康フォーラム開催 食の新潟国際賞の開催	
57	文化政策課	ラ・フォル・ジュルネ新潟	音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ新潟」において、地酒など食文化を体験できるプログラムを実施するほか、参加アーティスト向けに郷土料理を提供するなど食の魅力を発信します。	・地酒、地ワインや発酵食品など、食文化を体験できるプログラムを実施する。 ・フードコートにおいて、郷土料理や地元食材を活用する。	※H30年度~事業廃止	来場者数	63,000人	60,258人	C		H30廃止

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(平成29年度)

【評価凡例】 A:目標を上回った B:目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかった

将来像3 食を通じて「産業」が「つながり」新たな魅力を創造するまち(施策8,9) 事業数: 21

施 策8 新たな挑戦への支援 事業数: 14											
ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成29年度			平成30年度	開始/終了年度
				平成29年度	平成30年度		目標	実績	評価	目標	
58	産業政策課	食のマーケットイン支援事業(新潟IPC財団補助金)	食品製造業者などが抱える、売れる新商品の開発や、販路開拓といった課題を解決するため、専門家によるブラッシュアップや販路拡大計画の策定支援、補助金などのハンズオン支援を実施します。	・経済情勢や企業動向等により随時事業見直しを図っていく。	→	支援事業者が設定した目標に対する達成割合(%)	80%以上	100%	A	80%以上	
59	産業政策課	食の商談促進事業(旧:食の域内取引支援事業)(新潟IPC財団補助金)	食品事業者の新販路開拓を支援するため、県内外のバイヤーを招聘し商談会を定期的実施するほか、販売先が未確定の商品情報をバイヤーに提供し、商談の機会を探るニーズサーチを実施する。	・経済情勢や企業動向等により随時事業見直しを図っていく。	→	個別商談会のマッチング及びニーズサーチの実施件数	170件以上	113件	C	150件以上	
60	農業活性化研究センター	6次産業化サポート事業	農業者の新事業展開を支援するため、相談やセミナーを実施するとともに、6次産業化・農工商連携に取り組む農業者などを対象に、加工機械・施設などの導入および販売拡大に対し助成します。また、6次産業化ネットワークの構築を進めます。	・相談対応、ビジネスセミナーの開催 ・6次産業化・農工商連携支援(補助金) ・6次産業化ネットワーク支援事業の実施	→	食品加工支援センターとの連携による農業者支援	4件	4件	B	10件	
61	食と花の推進課	食文化創造都市推進会議の運営支援	本市の魅力である「食文化」をさらに磨きあげ、市内外に広く発信し、交流人口の増加や地域産業の活性化を図るため、産学官民で設立した「新潟市食文化創造都市推進会議」の運営を支援します。	・食文化創造都市推進会議の運営 ・食文化創造都市推進プロジェクト支援 ・機運醸成・啓発事業 ・生産者・料理人・消費者の関係づくり	→	食文化創造都市推進プロジェクト申請事業数	16件(過去3カ年の平均申請数:H28 22件、H27 17件、H26 9件)	21件	A	20件	
62	北区産業振興課	「しるきーも」特産化事業	北区産さつまいも「しるきーも」の特産化を進めるため、生産振興、商品開発、販路拡大を一連の取り組みとして、農工商・産官学連携で実施します。	生産振興、商品開発、販路拡大 生産・販売ネットワークの整備	見直し・拡充	生産面積	4.0ha	4.0ha	A	4.0ha	
63	江南区産業振興課	梅の里産地活性化事業	江南区を代表する農産物である「藤五郎梅」の産地存続に係る価格の低迷、生産者の高齢化などの課題解決を図るため、商品開発、マーケティングなどを支援し、地域ブランドとしての価値の向上と産地の活性化を推進します。	梅加工品開発・PRの支援 栽培技術・課題解決の調査研究	→	1. 梅果実高品質化のための管理手法の確立 2. 梅加工品製品化数	1.高品質な梅の生産圃場の管理手法の特定 2.梅加工品5つの製品化	1. 生産者間で梅果汁品質や香気成分にばらつきがあることを明らかにした。 2. 3品目(累計5品目)	B	1. 梅の生育環境と梅品質との関係性を調査する。 2. 2品目(累計7品目)	
64	西区農政商工課	いもジェンヌの生産拡大及び商品開発に関する支援【再掲】	西区内の砂丘地で生産されるさつまいも「いもジェンヌ」の需要増大への対応やブランド化を目的に、生産拡大や商品開発の支援などをいもジェンヌ農工商連携協議会を中心に推進します。	・作付面積拡大支援 ・商品開発支援 ・販路拡大支援 ・消費拡大支援 ・生産地域の活性化	・生産拡大に係る支援 ・商品開発支援 ・販路拡大支援 ・消費拡大支援 ・生産地域の活性化	いもジェンヌペースト取扱件数及び重量	27件, 4.0t	34件, 3.0t	B	作付面積23.0ha	
65	ニューフードバレー特区課	国家戦略特区推進事業	大規模農業の改革拠点を目指すと同時に、新潟ニューフードバレー構想の実現に向けた取り組みを加速するため、規制緩和などの効果を最大限活用し、農地の集積・集約、企業参入の拡大、農家レストラン設置支援など6次産業化の推進を図ります。	・特区推進協議会での地元意見の集約・フードメッセへの特区PRブース出展(成果PR)・新たな特定事業者の掘り起し・国への追加の規制改革事項の提案	→	1. 特例農業法人立上数(累計) 2. 農家レストラン設置数(累計) 3. 農業ベンチャー企業の設立数(累計)	1. 9法人 2. 6店舗 3. 9法人	1. 9法人 2. 3店舗 3. 9法人	C	1. 9法人 2. 4店舗 3. 9法人	
66	文化創造推進課	潟の魅力創造市民活動補助金【再掲】	潟の自然環境や歴史、暮らし文化などの魅力の調査・研究、発信、育成、伝承に資する市民活動を支援します。	・補助金要綱の見直しを検討 ※数値目標:採択件数 10件(H28年度)	新潟開港150周年記念事業に要素を集約することから、一旦休止	採択件数	10件	10件	B		H30休止
67	農業活性化研究センター	農業活性化研究センターにおける研究(伝統野菜の維持・保存)【再掲】	生産現場における栽培技術上の課題解決に向け、野菜・花き・果樹の栽培実証試験などを実施し、その中でナスやカブなどの伝統野菜の維持・保存を行うとともに、活用に向けた調査・研究を進めます。	ナスなどの伝統野菜の維持・保存	→	大学等との共同研究数	4件	4件	B	5件	
68	農業活性化研究センター	農産物高付加価値化推進事業【再掲】	農業者の所得向上や農業振興を目的に、付加価値の高い商品開発を進めるため、農産物に含まれる様々な機能性成分や有用形質に着目し、科学的根拠を裏付けとした調査研究を行います。	○柿葉プロジェクトの実施 ○農産物高付加価値化プロジェクトの実施 ○大麦プロジェクト支援	○農産物高付加価値化プロジェクトの実施 ○大麦プロジェクト支援(プロジェクトの進捗状況により見直し検討) ※柿葉プロジェクトはH29で区切り	地元産品の成分分析・調査、製品化支援	6件	6件	B	6件	
69	ニューフードバレー特区課	新潟市と東日本旅客鉄道(株)新潟支社との食に係る地域活性化連携協定	東日本旅客鉄道(株)新潟支社と新潟市は相互に連携し、①農水畜産物、日本酒を含む新潟市の食文化等の振興、②食に関わる生産者等と連携した観光、③食に係る市内の地域活性化、に取り組む。	・定期的な情報交換 ・プレスリリースの協力	→	プレスリリース協力回数	3回	4回	A	3回	
70	ニューフードバレー特区課	農産物販路拡大支援事業【再掲】	農産物販路拡大アドバイザーを活用し、販路拡大を支援するほか、販路拡大に意欲的な生産者の発掘・育成を目的に、セミナーを開催します。また、さらなる販路拡大のため、産地間連携出荷の拡大や大都市での販促活動を実施します。	・販路拡大アドバイザーとの連携 ・県や関係者と連携した大都市でのPR	・販路拡大アドバイザーとの連携 ・県や関係者と連携した大都市でのPR ・近隣市町村と連携したPR	農産物販路拡大支援団体数<H30年度~>新潟市産食材販路拡大アプローチ件数(件)	48件	48件	B	48件	
71	食と花の推進課	食と花の銘産品事業【再掲】	本市が市内外に誇る自慢の農畜水産物の認知度向上と消費拡大を図るため、「新潟市食と花の銘産品」として指定し、市内外へ広くPRするとともに、生産者が実施する販促活動に対して補助金などによる支援を実施します。	食と花の銘産品活動に対する支援	平成29年度をもって廃止	農産物プロモーション件数(海外含む)	68(昨年度実績+1)	53	C		H29廃止

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(平成29年度)

【評価凡例】 A:目標を上回った B:目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかった

施策9 さまざまな分野への食の活用											事業数:	7
ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成29年度			平成30年度	開始/終了年度	
				平成29年度	平成30年度		目標	実績	評価	目標		
72	食と花の推進課	12次産業化推進事業	本市が有する豊富で多様な田園資源を子育て・教育・交流など生活に密着する分野に活かす12次産業化の推進を図るため、12次産業化の普及・啓発に向けた取り組みを実施します。	・相談窓口を通じた事業実現サポート・リーフレット活用、セミナー開催、優良事例表彰等による理解促進・普及啓発・推進に向けた支援策の検討・実施	→	農業と他分野の連携プロジェクト数	67	74	A	73		
73	文化政策課	ラ・フォル・ジュルネ新潟【再掲】	音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ新潟」において、地酒など食文化を体験できるプログラムを実施するほか、参加アーティスト向けに郷土料理を提供するなど食の魅力を発信します。	・地酒、地ワインや発酵食品など、食文化を体験できるプログラムを実施する。 ・フードコートにおいて、郷土料理や地元食材を活用する。	※H30年度～事業廃止	来場者数	63,000人	60,258人	C		H30廃止	
74	スポーツ振興課	新潟シティマラソン	みなとまち新潟の魅力を詰め込んだコースを駆け抜けるマラソン大会「新潟シティマラソン」において、地域の食材を使用したエイド食を提供し、参加者へ本市の食の魅力を発信します。	参加者に地域の食材を使ったエイド食を提供	→	エントリー者数	12,000人	12,957人	A	12000人		
75	スポーツ振興課	新潟シティライド	市内を自転車で巡る「新潟シティライド」のエイドステーションにおいて、地域の食材を使用したエイド食を提供し、参加者へ本市の食の魅力を発信します。	・参加者にエイドステーションにて地域の食材を使ったエイド食を提供	事業の見直し・拡充を検討	エントリー者数	650人	710人	A	750人		
76	農林政策課	農・福連携事業	農業分野への就労を目指す障がい者の農業適性を判断するとともに、作業能力の向上を図るため、アグリパークで農作業訓練を行う。障がい者の就労促進と、労働力が不足する農業者へ新たな労働力としてマッチングし、持続可能な農業経営を支援する。	・新たな農業担い手の発掘 ・農業作業訓練 ・農業適性の見極め ・農業経営体への周知	→	・障がい者施設へ作業委託する農家戸数	30件	45件	A	40件		
77	スポーツ振興課	新潟ヒルクライム	岩室温泉をスタートし、弥彦山スカイラインを山頂まで駆け上がるヒルクライムを開催し、参加者に岩室温泉街のランチを提供することで本市の食の魅力を発信します。	・参加者に岩室温泉街のランチを提供(弁当メニュー若しくは店舗メニュー)	事業の見直し・拡充を検討	エントリー者数	500人	486人	B	550人		
78	文化創造推進課	水と土の文化創造都市 子どもプロジェクト 2017【再掲】	次代を担う子どもたちの創造性を育む子どもプロジェクトを実施する。アートや食、音楽などの様々な視点によるワークショップを開催する。	子どもプロジェクトの中で料理教室を実施 1回	水と土の芸術祭にて実施するため休止	実施件数	5件	5件	B		H30休止	